

県政への反映状況（令和7年度開催 知事と一緒に生き生きトーク）

第1回：テーマ「蒜山ジャージー酪農で岡山県を元気に！」（R7.4.18）

- 1 新規就農者の減少や酪農家の高齢化と後継者不足で、生産量も落ちている。さらに、物価高騰等が酪農経営の継続を難しくしている。

→ 輸入飼料依存からの脱却、農地の維持・有効活用、収益性の向上、後続牛の確保、担い手の確保等の課題に対応するとともに、持続的なジャージー酪農生産基盤の維持・強化を図り、出口戦略について引き続き取組を進めてまいります。

また、生産資材の高騰や牛乳・乳製品の消費低迷により経営が難しい状況が続いており、酪農経営の安定化を図るため、令和8年度は拡充して生産性向上・作業の省力化への取組や新規就農・経営継承に必要な施設・機械の導入を支援するとともに、新たな担い手確保のための実態調査などを実施してまいります。

未来へつなげ！蒜山ジャージー酪農基盤強化事業 1,748 千円

持続的酪農支援事業 6,203 千円

- 2 蒜山地域は傾斜地が多く、飼料となる牧草地の確保と拡大が難しいので、土地の整備をしてほしい。

→ 令和8年度から、集積・集約可能な農地の調査や地域内での調整、既存農地の集約化のモデル実証の取組に対して支援を行い、飼料生産の効率化を図ってまいります。

まるっと草地化！飼料基盤整備事業 5,094 千円

- 3 ジャージー牛とジャージー牛乳自体の知名度が低く、消費者にその価値を十分に理解してもらえない。また、メディアに取り上げられる話題性のあるA2牛乳を広告塔に、他のジャージー製品の販売促進や蒜山地域への観光客誘致につなげていきたい。

→ 県内や首都圏で開催される各種イベントにおいて、県産牛乳の試飲や配布、県産生乳100%認定制度のPR、普及啓発チラシの配布など消費拡大活動を行うとともに、ジャージー牛乳A2・ジャージーヨーグルトの配布を行うことにより、ジャージー牛の認知度向上に取り組んでまいります。

また、「まきばの館」を畜産・酪農情報発信の拠点と位置づけ、県産畜産物を使用した加工体験イベント等を開催し、県畜産物の認知拡大を図ってまいります。

まきばの館 県産畜産物PRプロジェクト事業 2,078 千円

第2回：テーマ「若手経営者の力で岡山の産業を元気に～意欲的な研究開発を目指して～」（R7.7.16）

4 県外でしかできない試験があり、旅費等が負担となったため、県内で試験ができる環境整備が必要だ。大学等で対応できることもあるため、工業技術センターがコーディネートしてくれると研究が進むと思う。

→ 工業技術センターの機器更新により、対応可能な試験を順次増やしているところです。また、センターと企業・大学等との共同研究による連携を通じて、大学のシーズの調査も行っています。

5 県内に研究開発を行う企業があることを学生に紹介することで、県内就職につながると思う。

→ 学生のインターンシップ受け入れにおける企業訪問の同行や、中高生の科学イベント「集まれ！科学への挑戦者たち」の企業講演を通じて、県内にも研究開発を行うオンリーワンな企業があることを周知しています。

「集まれ！科学好き」開催事業 752 千円

6 研究開発系の補助金は負担が大きいため、少額な補助金があれば、研究開発へのハードルが下がると思う。

→ 国の「小規模事業者持続化補助金」等は、少額な事業費を対象にしています。なお、県では月2回の補助金情報(国・県・市等)の発信を行っています。

第3回：テーマ「文化芸術による地域づくり～美作三湯芸術温度2025～」(R7.10.1)

7 来場者が無料鑑賞できる作品のほかに、宿泊者限定の鑑賞作品を企画できれば宿泊に付加価値がついて良いと思う。

→ 次回美作三湯芸術温度の実施の際は、宿泊者限定の企画も含め、展示内容を検討してまいります。

8 アーティストとして作品展示に参加しているが、来場者向けの説明機会がないため、アーティストトークや作品鑑賞ツアーなど、作家と来場者が交流できる場があれば良いと思う。

→ 参加アーティストと来場者の交流を図るため、イベント期間中に、美作三湯の各温泉地でワークショップやアーティストトークを実施しました。

美作三湯芸術温度の開催（うちワークショップ、アーティストトーク）312 千円

第4回：テーマ「若い世代の結婚や子育て、仕事との両立に関する不安の解消・将来設計支援」（R7.10.5）

9 妊娠や結婚、仕事（就職）などのライフステージを迎える若い世代へ、自治体の多様な事業情報が適切に届く仕組みが充実すれば、自身のライフデザインを立てやすくなると思う。

→ 若い世代が、ライフプラン全体の中で、仕事や結婚、家庭の在り方等について理解を深め、自らが希望し選択する将来設計について考えるきっかけをつくるため、ライフステージに応じた各種データや多様なロールモデルのライフストーリー、県が実施する子育て家庭留学やライフデザイン講座等の情報を集約したポータルサイトを、令和8年度中に開設する予定としています。

また、若い世代を対象としたライフデザイン講座も、令和8年度から開催回数を拡大して実施しています。

若い世代の将来設計支援事業（うち人生ずかんの作成）7,590 千円

若い世代の将来設計支援事業（うちライフデザイン講座の実施）9,526 千円

10 母子（親子）手帳交付時に、保健所で信頼できる支援情報（パンフレットなど）を提供してはどうか。

→ これまでも、市町村において母子（親子）手帳交付時に、おかやま子育て応援BOOKやももっこカードのパンフレット等を配布していますが、令和8年度は、これに加え、男女ともに協力して家事・子育てを担う共育を推進するため、家事・育児に協力して取り組むきっかけとなるシェアシートを作成・配布することとしています。

家事・育児シェアシートの作成事業 1,705 千円

11 男性の育休取得促進には、個別の企業努力だけでなく、行政が育休取得を後押しする施策を講じることで、企業がより育休制度に取り組みやすくなるのではないかと。

→ 男性の育休取得促進も含め子育て支援の取組が進んでいない企業を後押しするため、企業版子育て支援ポータルサイト「ハレまる。」において、「おかやま子育てしやすい職場アワード」受賞企業の取組事例や、国や自治体の支援制度の情報を紹介するほか、優良事例集を制作し、優れた取組事例の横展開を図っています。

令和8年度は、「ハレまる。」の発信力強化を図り、優れた取組事例の横展開をさらに促進するため、子育て支援に係る優良企業の事例を新たに収集し、発信することとしています。

企業版子育て支援ポータルサイト発信力強化事業 1,728 千円

第5回：テーマ「赤ちゃんふれあい体験で岡山県の未来を元気に！」（R7.10.20）

12 ふれあい体験は、中学生が子育てや将来について考えたり、母親等に寄り添う場として重要な機会だと思うが、参加親子の確保が難しい等の課題もあり、継続できるのか不安だ。

→ ふれあい体験は愛育委員への委託で実施していますが、実施市町村が限られているため、令和8年度は教育委員会への状況調査を実施し、今後は調査結果をふまえ、関係課とも連携して事業の拡充等を検討してまいります。

愛育委員委託費 1,310千円

第6回：テーマ「若者や女性に選ばれるおかやま」（R7.10.22）

13 首都圏の大学新卒の就職活動では、都市部の企業情報が優勢で、岡山県内企業の情報があまり入ってこなかった。岡山には良い企業が多いが、企業情報が伝わらないまま就職活動が始まると、東京での企業説明会が中心となり、岡山に戻る選択肢が失われるのではないかと。

→ 通年実施しているインターンシップ制度において、県業務の紹介や省庁訪問のほか、民間企業東京支社等の訪問も実施するなど、県内企業の職場を実際に体験してもらい、具体的な企業の魅力や岡山県での就職に関する情報発信を行っています。

14 リモートワークやワーケーションの活用により、東京の仕事を続けながら岡山に住むなど、柔軟な働き方の選択肢を増やす取組をしてはどうか。

→ 地域の女性をデジタル人材に育成し、地域在住のまま、都市部の高単価な業務に就業できるよう支援する取組を令和8年度から開始したところであり、女性の将来的な所得向上や多様な柔軟な働き方での就労・就業促進を図ることとしています。

地域デジタル女子人材育成・就業事業 26,400千円

15 県内で若い世代が地域に溶け込みやすいような、ハードルの低い受け皿の整備や、地域での活動を通じて自己肯定感を得られるような機会の創出が定着につながるのではないかと。

→ 女性や若者の還流・定着に資する施策を総合的かつ効果的に推進するため、「岡山県女性・若者還流定着対策推進チーム」を結成しました。

令和8年度からチームを本格稼働させ、市町村や県内大学、経済団体、企業など様々な主体と連携し、若い世代の意見も聞きながら、女性や若者にとって「魅力的な地域づくり」「魅力的な職場づくり」に取り組んでいるところです。

16 岡山を出て東京の大学に入学すると、岡山に戻るのには何かもったいないとする風潮があり、Uターンには負のイメージが付きまとっている印象がある。

→ 首都圏・関西圏の女性や若者を対象に、先輩移住者等との座談会等を交えたイベントを開催しています。引き続きこれらの取組を通じて、本県で理想の暮らしを実現できる魅力を積極的に発信してまいります。

17 高校段階で地元企業との連携やインターンを増やすべきだ。

→ 令和8年度は、県内高校生に、岡山発の最先端技術や県内企業の魅力、県内就職の魅力を直接感じてもらうため、「おかやまテクノロジー展（O T E X）2026」参加企業の若手社員と高校生との交流会を行うこととしています。

O T E X参加企業と高校生との交流事業 250千円

第7回：テーマ「若年女性が住みたいまちとは～関西在住の女子大生からみた津山暮らし～」（R8.1.30）

18 津山圏域は魅力ある地域だが、認知度が低くもったいない。大学との連携を増やし、情報発信していくことが必要だ。

→ 関西圏に進学した女子学生のUターン促進に取り組む中で、イベントの企画スタッフとして大学生に参画してもらうなど、若年層の意見も取り入れながら、事業がより効果的なものとなるよう取り組んでまいります。

第8回：テーマ「高校と産業界が連携した取組」（R8.2.2）

19 高校では日々ものづくり技能の習得に励んでいるが、校内だけでなく、学外の現場で実践できる機会を増やしてほしい。

→ 令和7年度から「産学連携コーディネーター」を配置し、学校が産業界等と連携した「リアルな学び」を実施するためのサポートを行っています。

産学連携コーディネーターの配置 1,374千円